九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「サザエさん通り」のまちづくりデザイン ： 福岡市早良区での産学官民協働による取組を事例として

森田, 昌嗣
九州大学大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門

曽我部, 春香
九州大学大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門

鮎川, 透
株式会社環・設計工房

杉本, 泰志
株式会社環・設計工房

他

https://doi.org/10.15017/1650616

出版情報：芸術工学研究. 24, pp.13-20, 2016-03-16. 九州大学大学院芸術工学研究院
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

受付日：2015 年 10 月 19 日、受理日：2015 年 12 月 10 日

「サザエさん通り」のまちづくりデザイン
福岡市早良区での産学官民協働による取組を事例として

Community Design and Public Design of “Sazae-san-dori Avenue”
A Case Study of Industry Public-Private Partnership in Sawara Ward, Fukuoka City, Japan

森田昌嗣[1] MORITA Yoshitsugu
曽我部春香[1] SOGABE Haruka
鮎川透[2] AYUKAWA Toru
杉本泰志[2] SUGIMOTO Yasushi
大城欣彦[3] OOKI Yoshihiko
森山百合香[3] MORIYAMA Yurika

Abstract

Sazae-san is a highly popular Japanese comic strip created by Ms. Machiko Hasegawa. Ms. Hasegawa created the characters when she was walking along the beach of Momochihama, Fukuoka City, in the 1940s.

As the city is the birthplace of “Sazae-san”, the municipal government of Fukuoka City named an approximately 1.6km long municipal street in Sawara Ward, Fukuoka City, “Sazae-san dori Avenue” and is promoting community revitalization program along the street.

In this communication, the authors report the activities of designing “Sazae-san dori Avenue” in one year and a half and the results since September 2013, when the Investigative Commission for Designing “Sazae-san dori Avenue” was established.

The Commission extracted problems and issues and determined the direction, themes, viewpoints and policies of designing community activities and the street. After it completed its mission of designing, the commission transformed itself into a council and continued acting to improve the design, promote community activities, and increase recognition level, such as by encouraging use of signs and banners.

連絡先：森田昌嗣、morita@design.kyushu-u.ac.jp
1 九州大学大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門
Department of Design Strategy, Faculty of Design, Kyushu University
2 株式会社　環・設計工房
Kan Architects Studio
3 株式会社　ジーエー・タップ
GA-TAP inc.

1. はじめに

日本の国民的人気漫画「サザエさん」は、日本だけでなく英語に翻訳され海外でも販売されている。また、アニメの「サザエさん」は、2013 年 9 月「最も長く放送されているテレビアニメ番組」としてギネスワールドレコードに正式に認定された。漫画「サザエさん」は、1940 年代に漫画家・長谷川町子さん（図 1［注 1］）が福岡市の百道の海岸を散策しているときに発案した (図 2［注 1］)。これにちなんで福岡市は、2012 年 5 月 27 日 (日) に、福岡市早良区西新から百道浜を結ぶ約 1.6km の市道を「サザエさん通り」と命名し、通りを生かしたまちづくりを進めている。

図 1　長谷川町子さん（1920-1992）© 長谷川町子美術館

図 2　百道の海岸で登場人物を思い浮かべる
© 長谷川町子美術館

本稿は、2013 年 9 月から 12 月までの“「サザエさん通り」構想検討会（筆頭筆者が会長を務めた）”から 2014 年 2 月発足した“「サザエさん通り」を生かしたまちづくり推進協議会（筆頭筆者がアドバイザーを務めている）”を要として、2015 年 3 月現在までの約 1 年半にわたって活動してきた「サザエさん通り」のまちづくりデザインのプロセスと成果について報告するものである。

2.「サザエさん」と「サザエさん通り」誕生の経緯

漫画「サザエさん」の作者、長谷川町子さん (1920 年佐賀県多久生まれ) は、幼少期から 1933 年まで福岡市に居住、翌年東京に転居した。第 2 次大戦中の 1944 年から福岡に西新に疎開し、西日本新聞編集局絵画課に勤務、終戦 (1945 年 8 月 15 日) の翌日に退社した。

図 3　漫画「サザエさん」第 1 巻表紙　© 長谷川町子美術館

その後、百道の海岸でサザエさんの登場人物を発案し、1946 年から「夕刊フクニチ」で「サザエさん」の連載が始まった。同年の暮れに拠点を東京に移したため「サザエさん」の掲載誌は「新夕刊」を経て、1951 年に「朝日新聞」へと変わり、1974 年まで連載された。(図 3［注 1］参照)

福岡市早良区の百道の海岸が「サザエさん」発案の地であることから、「サザエさん」ふるさとづくりの市民活動が起こり、2007 年、発案当時に海岸線だった、現在の「よかトピア通り」と「西新通り」の交差点の「磯野広場」に「サザエさん発案の地」記念碑が設置された。その後、2012 年 2 月には、西新、高取、百道、百道浜校区各自治協議会及び福岡西部まちづくり協議会の連名で、「通り名称に関する要望書」が早良区長に提出され、同年 3 月に“早良区通り名称検討委員会”において、現在の「サザエさん通り」の愛称と区間にする案がまとまった。このように福岡市の地元の自治会や商店街等の要望を受け、「サザエさん」の著作権を持つ長谷川町子美術館の承認を得て、また、すでに「サザエさん通り」がある東京都世田谷区桜新町商店街振興組合のご厚意により、全国 2 番目の「サザエさん通り」が誕生した。(図 4［注 2］)

図 4　「サザエさん通り」オープニング式典
2012 年 5 月 27 日

福岡市早良区の「サザエさん通り」は、「明治通り (地下鉄西新駅)」の脇山口交差点から「西新通り」交差点、「よかトピア通り」の博物館前交差点を経てシーサイドももち海浜公園に至る 1.6Km の通りである。また同時に、「夕刊フクニチ」に連載されていた頃のサザエさんの顔が、福岡市の早良区「サザエさん通り」のキャラクターとして特別に長谷川町子美術館から提供された。(図 5［注 1］)

図 5　長谷川美術館より特別に提供された福岡市早良区の「サザエさん通り」キャラクター

3.「サザエさん通り」構想検討会までの取り組み

「サザエさん通り」を地域の活性化のために生かしていくために、2013 年 9 月、地元、商店街、企業、学校、市民団体や行政などが協力して“「サザエさん通り」構想検討会（以下、構想検討会）”を立ち上げ、共働［注 3］で取り組むまちづくりの具体的なビジョン構想を検討することとなった。以下に、構想検討会までの取り組み状況と課題をまとめる。

3.1. ソフト面での取組と課題

「サザエさん通り」とその周辺には、古くからの街並みと新しい街並み、活気のある商店街、小学校から大学までの教育施設、博物館・総合図書館などの文化施設、企業などが集まっており、さまざまな人々が生活している地域である。2012 年 5 月の「サザエさん通り」オープニング式典誕生パレード実施にはじまり、通りの紹介展示やウォーキング大会、「サザエさん通り」を生かしたまちづくりを考えるワークショップなどのイベントやキャンペーン活動が行われた。これらの事業は、地域・企業等での取り組みと早良区役所主催事業、そして地域と行政の共働事業によって、2012 年度 20 回、2013 年度 20 回のソフト面での取り組みが実施された。(図 6［注 2］参照)

これらのソフト事業の状況を踏まえ、「サザエさん通り」の認知度向上、取り組みの継続と成果の活用、個々の活動のより一層の連携の充実、そして、情報の共有と発進力強化、のソフト面での 4 つの課題が抽出された。

3.2. ハード面での取組と課題

ハード面の最初の取組では、2007 年、発案当時の海岸線だった「西新通り」交差点の「磯野広場」の「サザエさん発案の地」記念碑設置された (図 7)。

平成 25 年度「サザエさん通り」関連事業

●地域・企業等での取り組み　●共働事業　●早良区役所主催事業

	月	日	事業
平成25年度	4月	8日	●春の交通安全キャンペーン サザエさん、海平さん着ぐるみ参加
	5月	3日～4日	●博多どんたく港まつり西新演舞台 サザエさん、マスオさん、海平さん着ぐるみ参加
		12日	●母の日にサザエさん、海平さんがカーネーション配布
		26日	●「サザエさん通り」誕生一周年記念シンポジウム （西南学院大学）
		27日	●サザエさん 1 日早良区長
		27日～	●「サザエさん通り」ハッピーウェディング事業 ●「サザエさん通り」撮影コーナー開設
	6月	16日	●ラブアース・クリーンアップ 2013　早良区 サザエさん、マスオさん着ぐるみ参加 （シーサイドももち）
	7月	1日～15日	●博多祇園山笠「サザエさん」飾り山（新天町・博多駅）
		9日	●「さわらの四季コーナー」サザエさんカルタ 販売開始
	8月	5日	●「さわらの四季コーナー」サザエさんグッズ 販売開始（クリアファイル、ノート外）
	9月	12日	●第 1 回「サザエさん通り」構想検討会
		14日	●世田谷区桜新町ねぶた祭り 福岡「サザエさん通り」PR
		29日	●「サザエさん通り」まちづくりワークショップ（若者） 小学生～大学生が参加したまちづくりワークショップ
	10月	6日	●「サザエさん通り」ウォーキング大会
		13日	●西新・商取勝鬨夢祭り サザエさん、マスオさん、海平さん着ぐるみ参加
		16日	●「サザエさん通り」まちづくりワークショップ（一般） 地域住民、団体、行政が参加したワークショップ
	11月	7日	●第 2 回「サザエさん通り」構想検討会
		16日～17日	●西新商店街連合会せいもん払い 「サザエさん通り」PR イベント
		22日	●いい夫婦の日　サザエさん、マスオさんが 新婚カップルのお祝い
	12月	9日	●第 3 回「サザエさん通り」構想検討会

平成 25 年 4 月 8 日
春の交通安全キャンペーン

平成 25 年 5 月 26 日
誕生一周年記念シンポジウム

平成 25 年 5 月 27 日
ハッピーウェディング事業開始

平成 25 年 9 月 29 日
サザエさん通りワークショップ(若者

平成 25 年 10 月 16 日
サザエさん通りワークショップ(一般

図 6　ソフト面での取組例：2013 年度関連事業

図 7　磯野広場の「サザエさん発祥の地」記念碑

その後、2012 年 5 月に、通りの照明柱に取り付ける「サザエさん通り」名称プレートが 20 カ所、そして同年 9 月には、自立型の「サザエさん通り」名称サイン（5 カ所）が設置された（図 8）。また、既設の福岡市歩行者用都市サインの案内地図に「サザエさん通り」が記載された。

しかし、通り名称プレートと名称サイン設置後 1 年を経過した時点でも、通りが認知されている状況ではなく、以下のハード面での課題を見出した。

「サザエさん通り」は、道路規格が違い性格の異なる３つの市道が鍵型に屈曲したルートで辿るため、ルートの地理情報の周知、起点・終点・曲がり角等を活用したシンボル性の向上、通りの雰囲気の統一化･魅力づくり、そして「サザエさん通り」を軸として周辺への広がりを持たせる工夫の必要性など、４つの検討すべき課題を導出した。

図８　通り名称プレート（上）、通り名称サイン（下）

4.「サザエさん通り」構想策定

4.1. まちづくりの方向性と構想のテーマ

漫画「サザエさん」から「明るい」「元気」「人情味が厚い」をイメージする意見がワークショップなどで多くだされた。また、「サザエさん」の磯野家は、三世代が生き生きと暮らし、近所づきあいも活発な元気で明るいまちに住んでいる。これらから、「サザエさん通り」を生かしたまちづくりの方向性を、地域に住んでいる人も地域を訪れる人も、子どもから高齢の方まで、すべてのひとが、みんな家族のように生き生きと遊び、学び、交流する「まち全体がサザエさん一家」という姿にあらわした。そして、以下の４つの「サザエさん通り」構想のテーマを位置づけた。［注２］

１）「サザエさん通り」を生かした共働のまちづくり
２）サザエさん一家のような明るく、子どもが夢を描けるまちづくり
３）人と環境を大切にするまちづくり
４）線から面への広がりを持ったまちづくり

図９　サザエさん通りを生かしたまちづくりの目指す姿

4.2. ソフト面でのまちづくりの方針

方針の一つは、「サザエさん通り」の認知度を高めるために、住民や企業、団体、行政が共働で取り組み、連携して内外に発信すること。二つには、「サザエさん通り」で遊び楽しむために、地域の方や来訪者が、みんなで快適に楽しむイベントや活動を通して、子どもたちの夢を育む通りをつくる。三つ目は、長谷川町子さんの足跡と「サザエさん」から、地域の環境や歴史を学び、その良さを伝える、地域に根ざした活動を進める。そして４つ目に、「サザエさん通り」での多様な関係者の連携による活動を通して、「サザエさん通り」が、さまざまな人々との交流の主軸となり面的な交流に結びつけていくことを方針とした。

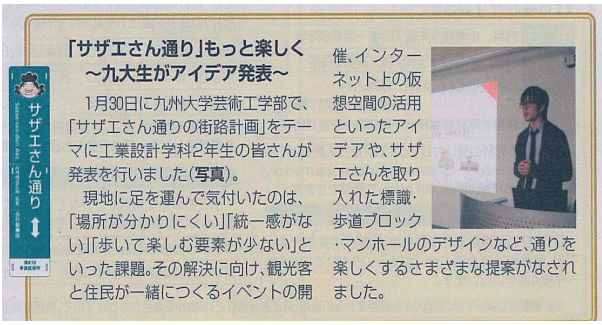
4.3. ハード面でのまちづくりの方針

ハード面においても、まず「サザエさん通り」をより明確にすることと、認知度を向上させることが求められた。そのための取り組み方針としては、性格の異なる３つの通りからなる「サザエさん通り」のつながり感を高め、誰もが分かりやすい通りをつくることが急務となった。さらに、鍵型に屈曲したルートの特性に対応した、起点から曲がり角、終点に通りのシンボル性を高める工夫が必要とされた。また、快適に楽しく誰もが利用しやすい通りの実現に向けて、ユニバーサルデザインによる歩きやすい通りに、人々の交流スペースをつくるなど、利用面と景観面を考慮したパブリックデザインを実践することが示された。そして線から面への広がり、「サザエさん通り」の整備が地域全体の魅力にとつながっていく、広がり感をもったトータルデザインを目指すことがまちづくりの方針と位置づけられた。

5.「サザエさん通り」まちづくりデザインの実施状況

5.1. まちづくりデザインと大学教育

筆者らが所属する九州大学芸術工学部工業設計学科では、プロジェクト・チーム・ラーニングのデザイン演習を課している。2013 年度は、「サザエさん通り」構想検討会での検討事項の整理や現地調査などを行い、学生たちの視点からの「サザエさん通り」のデザイン提案を作成し、早良区長はじめ関係者同席の上でプレゼンテーションと意見交換を行った (図 10［注 4］)。学生たちの提案が、そのまま採用されることはないが、行政としては実施段階でのヒントが得られ、学生においては、模擬的なデザイン提案の実践体験の場となった点で意義があった。この演習は継続して進める予定である。


「サザエさん通り」もっと楽しく
～九大生がアイデア発表～

1月30日に九州大学芸術工学部で、「サザエさん通りの街路計画」をテーマに工業設計学科2年生の皆さんが発表を行いました(写真)。

現地に足を運んで気付いたのは、「場所が分かりにくい」「統一感がない」「歩いて楽しむ要素が少ない」といった課題。その解決に向け、観光客と住民が一緒につくるイベントの開催、インターネット上の仮想空間の活用といったアイデアや、サザエさんを取り入れた標識・歩道ブロック・マンホールのデザインなど、通りを楽しくするさまざまな提案がなされました。

図 10　ふくおか市政だより (2014.3.1) 掲載記事

5.2. ソフト面での実施状況

ソフト面の活動は、多様な主体によって年間 20 件以上のイベント等が既に開催されており、今後も継続することにより連携を広げることが構想検討会での方針となった。そこで、構想検討会の閉会後に、地域住民、企業、行政等が共働でまちづくりを推進する“「サザエさん通り」を生かしたまちづくり推進協議会（筆頭筆者がアドバイザーを務める)”が 2014 年 2 月に発足し、定期的に活動の企画・計画の審議、実施後の振り返りと今後の進め方など、の情報･意見交換が行える場がつくられた。

5.3. ハード面での実施状況

ハード面においては、「サザエさん通り」の明確化と認知度の向上のために、サインやバナーなどによる通りの一体感とわかりやすさのためのパブリックデザインを実施し、2015 年 3 月現在で以下の項目が整備された。(図 11 参照)

1）通りの街灯に「サザエさん通り」のバナーを設置

ロゴとキャラクターは性格の異なる 3 つの通りに共通に使用し、3 つの通り別にカラー分けして個別化してい

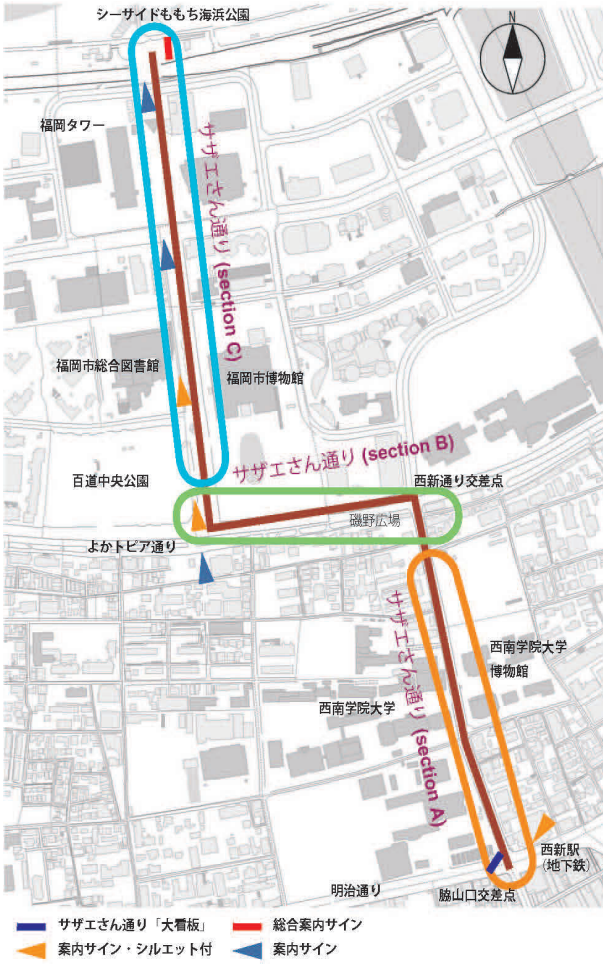


図 11　ハード面での整備状況配置図

図 12　通りの街灯に取り付けた 3 種類のバナー
左から、福岡市博物館前～シーサイドももち (青系)、よかトピア通り (緑系)、西新通り (茶系)

る。(図 12)

2)「サザエさん通り」の大看板を整備

通りの起点となる西新の脇山口交差点の既設の公共看板を再利用し、「サザエさん」を大胆にレイアウトした、公共の案内看板として前例がない取り組みとなった。

図 13　地下鉄西新駅近くの公共看板
（「サザエさん通り」の起点に設置されている）

3）「サザエさん通り」のオリジナルサインの設置

サインは、総合案内サインと案内サインの２種類のサイン板と、サザエさん一家のシルエット像の組み合わせによる展開となった。

○総合案内サイン

起点、曲がり角、主要施設周辺、終点などは、総合案内サインもしくは案内サインとシルエット像の組み合わせで設置することで、サザエさん通りの独自の個性を表現している。今回の整備では、「サザエさん通り」の終点となるシーサイドももち海浜公園に、総合案内サインが設置された（図 14）。

総合案内サインは、終点以外に、起点の西新駅周辺および通りの中間地点の拠点となっている磯野広場の設置が計画されており、この２カ所に関しては、磯野広場の改修計画などの関連計画とあわせた段階的整備が予定されている。

図 14　シーサイドももち海浜公園・総合案内サイン
＋シルエット像・青系（「サザエさん通り」の終点）

図 15　地下鉄西新駅出入口側の案内サイン
＋シルエット像・茶系（西新通り／脇山口交差点）

図 16　よかトピア通りの案内サイン＋シルエット像・緑系
（福岡市博物館前）

○案内サイン

総合案内サインが設置される主要拠点以外、ルート上で案内が必要とされる配置箇所は、案内サイン単独設置となっている。フレームに３つの通りの色を配し、サインの存在感を表現しているが、基本的に、シルエット像

も含め素材感を生かし景観に同調することが配慮されている。(図 11 参照)

３つの通りによって構成されてる「サザエさん通り」は、前述したバナーの展開と同様に、西新駅を起点とし磯野広場に至る西新通りには、茶系のサインとシルエットによって形づくられている（図 15)。磯野広場から福岡市博物館前までのよかトピア通りに関しては、緑系のサインとシルエット像となっている（図 16)。そして福岡市博物館前から終点のシーサイドももち海浜公園までの区間は、青系のサインとシルエット像の組み合わせで展開している（図 17)。

図 17　シーサイドももちに至る通りの案内サイン＋シルエット像・青系（福岡市総合図書館前）

鍵型に屈曲したルートの交差点部などには、上述した案内サインとシルエット像のセットで設置して案内拠点として位置づけている。これら案内拠点間で案内が必要な箇所については、案内サインのみの設置で対応している。(図 11 参照、図 18)

これらのサイン等の設置後は、サザエさん一家のシルエット像が特徴的なことからか、観光客がサインやシルエット像と一緒に記念撮影する様子が多数見受けられるなど、親しまれるデザインとなったと評価できる。サイン整備は、わかりやすい案内を提供すると共に、設置される場所と調和した個性を表現する役割も担っている。

図 18　よかトピア通り (博物館交差点) 案内サイン・緑系 (上)　シーサイドももち海浜公園入口案内サイン・青系 (下)

今回は段階的整備の第 1 段階であり、今後の継続した計画と整備によって、今後も地域に愛されるサインとなることを期待したい。

6. おわりに

約 1 年半の歳月をかけて進めてきた「サザエさん通り」のまちづくりデザインは、ソフト面、ハード面の共通課題であった「サザエさん通り」の明確化と認知度を高める点で成果が得られたといえる。特に、地域住民、企業、行政等が共働で進めるイベントなどのソフト面の活動が継続していること、さらに共働によるオリジナルでわかりやすいサインやバナーなどによる個性的なハード面のまちづくりを推進していることが特筆される。

サイン整備後の 2015 年 7 月、シーサイドももち海浜公園に設置された総合案内サインのサザエさんのシルエット（図 14 参照、図 19）が、何者かに損壊される事件があった。アルミ合金鋳物製であり故意に破壊したようで、犯人も動機もわかっていないが、とても残念なことである。事件後関係者の協議によって、福岡市の公費で改修するのではなく、地域で創り、地域で育むまちづくりの姿勢を示す意味からも、地域住民を中心とした関係者による寄付を募って修理にあてることとなった。

図 19　総合案内サイ右端のサザエさんのシルエット像が上の写真のように損壊された（シーサイドももち海浜公園）

図 20　2015 年度の「サザエさん通り」ウィークのチラシ

これからも、共働による「サザエさん通り」まちづくりデザインは、ソフト面とハード面相互に連携して進めていく予定である。例えば、ソフト面での取組では、2015 年度も、通り名が命名された 5 月を記念した「サザエさん通り」ウィークなど、20 数件のイベント等が企画され実施されている。ハード面での整備計画としては，人々の交流の場となる「磯野広場」の改修計画や、通り沿いの学校法人西南学院が創立 100 周年を記念して整備予定の公開空地の広場の活用（総合案内サインの設置等）など、産学官民連携事業が予定されている。

最後に、「サザエさん通り」構想は、(株) 環・設計工房、そして看板・サインのデザインは、(株)GA タップとの共同制作、そして資料提供等に関しては福岡市早良区役所および長谷川町子美術館・川口淳二館長の全面的な協力によるものであり、ここに謝辞を申し上げる。

注および引用・参考文献

1) 長谷川町子美術館所蔵の写真、図版
2)「サザエさん」構想、福岡市早良区役所（早良区区政　　推進部企画課）、2013 年 12 月
3)「共働」とは、市民、NPO, 企業、行政等、あらゆる主体が、お互いの役割と責任を認め合い、相互関係・パートナーシップを深めながら、課題や目的を共有して、課題解決のために知恵や力をあわせ、長所や資源を活かして、共に汗して取り組み行動すること。福岡市では「共働」という表記を使っている。
4) ふくおか市政だより、2014（平成 26 年）3 月 1 日号、No.1519、早良区版、p.16、2014
5) 森田昌嗣、曽我部春香、福岡市早良区「サザエさん通り」におけるまちづくりデザイン、日本デザイン学会誌　デザイン学研究第 62 回研究発表大会概要集、2015.5.29、pp.200-201